

日本福音ルーテル教会 女性会連盟 第 22 期 149 号

会報



総主題

「キリストが望んでおられる」 喜び・祈り・感謝

2014. 10. 15

発行 日本福音ルーテル
教会女性会連盟
〒169-0072 東京都新宿区
大久保 1-14-14

発行者 鈴木 直子
編集者 寺嶋 文世
印刷 平山印刷出版

主題聖句

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」
テサロニケの信徒への手紙一 5.16～18

あなたへ



「助け手」を見つげるために

千葉ベタニヤホーム

理事長 中島 康文

(市川教会牧師)

13年前の夏、私は船橋市の母子生活支援施設(以下母子ホーム)へ駅から歩いて向かいました。ひと月前に理事長を拝命し、施設の状況を知るために出掛けたのです。施設までは1.5km程、汗を滴らせて歩きながら、入所してくるお母さんたちの心に思いを馳せました、「この道を、生活や我が子の将来への不安等々を抱えながら通っていかれたのではないか。見知らぬホームへ向かわざるを得ない我が身を、どのように受け止めておられるのだろうか」と。「理事長を拝命したけれども、素人の私に何ができるのだろうか」と私も不安を感じつつ、汗を滴らせながら施設まで歩きました。

母子ホームは「18歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの理由で離婚の届出ができないなど、母子家庭に準じる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設」です。ホームを退所するまでの支援が主ですが、近年は退所してからの生活支援も行う

ようになりました。また生活支援だけでなく心のケアも必要なケースが増えています。一人ひとりの心に寄り添いつつ相応しい支援によつて自立していつてほしいと願う日々です。
「主なる神は言われた。『人が独りでいるのは良くない。彼に合う助け者を造ろう。』」(創世記2章18節) 助ける者が必要な存在、それが人間なのだ。聖書は語ります。経済的に精神的に一人の力で出来るようになること、それが「自立」と思いがちですが、聖書はそれを否定します。むしろ「私には助けが必要なこと、そして私に相応しい助け手を見出した時が自立する時なのだ」と告げてくれます。不安を抱えて施設にこられる母子に私がしてあげられることは、13年前と同じで何もありません。でも「相応しい助け手を神様が必ず送ってください」と祈ることだけは伝えられるようにと祈る日々です。もちろん私にも、そしてあなたにも神様は相応しい助け手を送ってくださいと信じています。